

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	子どもデイサービスどんまい		
○保護者評価実施期間	2026年1月10日		～ 2026年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24名	(回答者数) 15名
○従業者評価実施期間	2026年1月10日		～ 2026年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ご家族様との信頼関係が厚く、個々の利用者様の特性やニーズを深く理解した支援が提供できている点。	連絡帳や送迎時の対話などのコミュニケーションを重視し、利用者様の様子を細やかに共有している。ご家族様からの申出には柔軟に応じており、お電話等で突発的な追加のご予約、ご相談、ご依頼等、また個別の配慮等をお受けすることもある。	評価集計に表れているように、ご家族様から頂いている高い満足度を維持しつつ、家庭での困りごとに対する相談支援や情報提供(ペアレント・トレーニングの要素など)をさらに強化し、家庭と連携した支援体制を盤石にする。
2	職員間の連携が強く、突発的な事態にもチームワークで柔軟に対応できる点。	インカムや密なコミュニケーションを活用し、トイレ誘導やトラブル対応等、柔軟に職員間でカバーしあっている。現在では特に、職員一人一人が利用者様の安全確保に対して高い意識を持って業務にあたっている。	属人的な「あうんの呼吸」に頼る部分を減らすため、対応手順の言語化・マニュアル化を進め、新任職員でも質の高い支援ができるよう育成体制を整える。
3	利用者様が安心して通所でき、楽しみにできる居場所としての雰囲気が作られている点。	活動プログラムがマンネリ化しないようランダムな要素を取り入れたり、ご利用者様の意思や選択を尊重する関わり方を心がけている。また、限られたスペースでも個別の学習室やカームダウンエリアを柔軟に確保し、可能な限り利用者様の特性に応じた環境作成を行っている。	地域交流や外部との関わりを増やし、利用者様の社会経験の幅を広げる機会を積極的に創出していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用者様の一部ニーズ(特に重度の身体介助や、特定の強度行動の対応等)に対して、建物の構造上の制約がありリフォームや造作では対応することが難しく、本来環境整備で対応可能な部分まで、必要以上に多くの職員で対応に当たっていること。また、新規ご利用者様のご契約が少なくなっていること。	建物の構造上の制約(特にトイレが1つしかない点や、静養スペースが不足している点)が根本的な原因として考えられる。賃貸の為に大規模な改修が難しく対応しかねている。また、市内に新規事業所が複数オープンしたこともあり、やはり新築の綺麗な事業所が選ばれやすいとの話を耳にすることがある。	大規模改修が困難な現状では、トイレ誘導のタイムスケジュールの組むことや、簡易パーテーションの活用によるスペース確保など、運用面での工夫で対応する。将来的に新築の建物に移転出来ないか検討を行う。
2	業務を更に効率良く行いたい、支援力をより高めたいという向上心のある職員に対し、効果的な研修等が行えていない。また、担当範囲外の業務について職員が学べる機会が少ない。	年々法令により義務化される業務が次々と増えてきており、日々の業務に追われ、更なる支援力向上等の為に職員全員が集まって長時間の研修等を行う等することが難しくなっている。	長時間拘束する研修等ではなく、朝礼等の短時間(10分程度)を活用したミニ研修を定例化し日々行うことで、同等の研修となるよう工夫する。また、特に防犯、防災、虐待防止等については、マニュアルの要点を掲示するなどし、日常的に学習できる仕組みを作る。
3	職員間で頻繁にコミュニケーションを取っており、職員個人の支援力も高い為、情報共有や日々の業務に支障は無いが、会議の場でより深く集中して意見交換や振り返りを行う時間が年々減ってきている。	年々法令により義務化される業務が次々と増えてきており、日々の業務に追われ、意見交換や振り返りを集中して行う場を長時間設けることが難しくなっている。	業務記録の効率化を図り、捻出した時間で振り返り等の時間を多く確保できるよう工夫する。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	子どもデイサービスどんまい					公表日	2026年2月28日		
						利用児童数	24	回収数	15
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応		
環境・ 体制 整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	8	5		2			
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	12			3			
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	13	1		1			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	14			1			
適切 な 支 援 の 提 供	5	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	15						
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	13			2			
	7	子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	15						
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	14			1			
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	15						
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	12	1		2			
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	10	1		4			
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	15						
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	15						
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	10	1		4			
	15	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	14	1					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	13	1	1				
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	14	1					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	7	3	1	4			
19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	13			2				

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	15					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	13			2		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	15					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	14			1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	13			2		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	14			1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	13			2		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	15					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	13	2			いろいろな支援内容を楽しみに通所しているみたいです。	ありがとうございます。これからも充実した支援を提供できるよう努力してまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	15				急な土曜日の利用にも対応していただき助かりました。	ご利用のご相談、お困りごとのご相談など、お気軽にご連絡いただければと思います。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		子どもデイサービスどんまい				公表日	2026年2月25日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		利用者様の特性に応じて、支援をより効果的に行えるよう、都度リフォームをするなどし対応している。
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		○		法令に準じ適切な配置を行い、更に専門の資格を保持する職員の加配も行っている。	常勤職員等の急な体調不良時や、人が多く必要になる特定業務の際には人員不足を感じることもある。	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○		基本的な構造化・バリアフリーに加え、利用者様の特性や状態に応じて都度造作等で対応を行っている。	安全性を重視することにより一部構造化が出来ない部分がある。また、トイレが複数あればより効率的に支援が行える。	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		○		定期的に清掃・消毒・換気を行い、清潔に保たれている。	リフォーム等を行ってはいるが、新築の事業所と比べて選ばれにくい。設備的に難しいが、利用者様の状態に応じての部屋割が理想。	
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		○		個別ブースを設置し希望時に利用できるようにしたり、状況に応じて学習室を個別利用に使用できるようにしたりしている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		PDCAは用いないが、点検項目の順番を入れ替える等の細やかな事項でも職員の声を反映する「feel free to」を芯に業務改善を実施している。	職員全員で長時間会議をすることが難しく、職員によっては、より良い業務改善を行うためにもっと意見交換を行いたいという声がある。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		評価を集計し、高評価、低評価、ご意見についても、職員でフィードバックしている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		日々設けている。社員・パート共に責任感があり、職員間の連携が上手く、コミュニケーションも豊富で、気軽に改善が行えている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		第三者評価を行う場合、評価機関との連携および契約が必要となる。現在は行っていない。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		現在では職員の入れ替わりが極めて少なくベテラン職員が多いこともあり、資質が高い状態で保たれている。	研修の受講や法人内研修は定期的に参加実施しているが、小規模頻回で実施していた資質向上のための講話が現在出来ていない。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		大幅な法令改正に迅速に対応出来ている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		ガイドライン及び日々の会議・ミーティング等で検討した適切なアセスメント・計画作成に加え、聞き取りで個別の依頼、個別の配慮をお受けする等ある。	職員全員で長時間会議をすることが難しく、職員によっては、もっとより深く分析を行いたいという声がある。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		職員の意識が高く、ほとんどの職員が共通理解があると回答している。	職員全員で長時間会議をすることが難しく、職員によっては、もっとより深く検討を行いたいという声がある。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		項13に同じ。	項13に同じ。また、支援計画に沿った支援はしているが、対応が大変な利用者様ほど多くの支援が必要になることから、職員によっては、利用者様全員により効果的に支援を行いたいという声がある。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		アセスメントを適切に行い、日々の行動観察結果を職員間で記録・共有し、適宜、適応行動の状況確認を行っている。	職員によっては、現状に満足せず、全ての利用者様の全日程の行動記録、全てのアセスメントを見返して、より詳細に分析を行う時間が必要という声もある。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		項8に同じ。	大幅な法令改正により○○プログラム等の言葉が乱立して混乱を招いている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		季節ごとのイベントや、長期休暇等では普段行けない所へのお出かけ等を実施している。また利用者様は利用曜日を固定されている方も多いため、普段から活動は曜日で固定されないようになっている。		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		項12に同じ。		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		項8に同じ。		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		項8に同じ。	勤務時間の兼ね合いでパートの方と話すことが出来ない場合がある。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		項15に同じ。	項15に同じ。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		項12に同じ。	利用者様の長期休暇中は職員の稼働が多くなり、すぐに実施できない場合がある。当該業務を多くの職員が出来るようになると良い。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		項12に同じ。		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		心の三大栄養素の提供に掛る楽しさの自己決定、マズローの五段階欲求における自己実現欲求へ向けた支援等、支援の根幹に根付いている。		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○				
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		一部は重要事項説明書等にも記載し、専用の記録用紙もあり、利用者様・職員共に分かり易いよう体制を整えている。	関係機関によっては非協力的なところもある。一部の担当職員のみでなく、多くの職員が連携業務を出来るようになると良い。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			項27に同じ。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			項27に同じ。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			項27に同じ。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			項27に同じ。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○		学校でのストレスを放デイ利用で緩和している利用者様もあり、交流は難しい現状がある。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			協議会の中の部会等については日程が開示されるようになり、参加出来るようになった。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			連絡帳でのやり取りが基本となるが、方法についての要望があれば柔軟に応じている。	保護者様が多忙で中々連絡が取れないご家庭もある。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			お悩み事やご利用者様に関するご相談等、内容を問わずお電話にて随時受け付けている。事業所で1時間程度、個別のご相談を伺うこともある。	家族支援プログラムは基本として実施しているが、ペアレントトレーニングと銘打った研修や情報提供は行っていない。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			ご家族様に寄り添えるよう意識しながらお話をさせて頂いている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		項12に同じ。		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			項36に同じ。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			項35に同じ。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		親の会は存在するが、多忙なご家庭も多く、ご参加されるご家庭が極めて少ない為、現在積極的に開催できていない。きょうだいの交流も含め、良い方法を検討中。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	項35に同じ。また、重説で窓口を周知している。方が一、苦情があった場合は、適切かつ迅速に対応できるように、誠心誠意謝罪し改善を行うものとしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○	新規利用者様向けにHPをリニューアルしてWEB掲載している。事業所の予定や連絡は連絡帳や紙媒体で直接お渡ししている。	SNSは悪意のあるユーザーも含めた不特定多数に発信されるため、非常に扱いに繊細さを要するものであることから運用できていない。方法を検討中。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	太田ステージ、視覚支援カードやスケジュールを用いて配慮を行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	開所以来、地域交流をプログラムに取り入れて活動している。	行事を地域に開くということは、不審者を招き入れるリスクやトラブルを呼び込む可能性が増えるということでもあるため、安全面から難しい現状もある。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○	ご利用中に服薬がある利用者様やてんかんの利用者様は職員で共有を行っている。	壁などに掲載できる緊急時でもわかりやすいようなマニュアルの抜粋の作成。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	漏れなく全ての利用者様に聞き取りをし、資料化している。ご家族様の指示に基づいて対応している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	研修や訓練を定期的に行っている。	既存の取り組み以上に安全に特化した研修や訓練を全員で実施すべきという職員の声もある。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		項50に同じ。また、利用開始時以外でご説明をする機会がなかなか取れていない。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	ヒヤリハットは小さな事でも積極的に記入することになっている。	些細なことでも記入していることから、漏れなく全職員で共有する必要のないものまで混ざってしまっている。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	虐待防止委員会や研修を定期的開催しており、内容の確認展開を行っている。日々唱和する職員十か案にも盛り込まれている。	大事な事なので、既存の取り組み以上に頻度を増やすべきという職員の声もある。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○	項12に同じ。		